

渡島・檜山地方道路防災連絡協議会
平成 20 年度 第 2 回 幹事会 会議録（要旨）

1. 概要

- 1) 開催日時 : 平成 21 年 2 月 24 日 (火) 10:30 ~ 12:00
- 2) 場 所 : 函館開発建設部 地下会議室
- 3) 出席者 : 別表 に記載
- 4) 議 事 : (1) 冠水想定箇所への再整理について
(2) 道路情報の提供について
(3) 豪雪及び津波検討の状況
(4) その他

2. 配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料-1 (議事に沿って構成)

3. 議事内容

3-1. 議事 1 冠水想定箇所の再整理について

- ・ 事務局より、冠水想定箇所の再整理について、説明を行った。

(説明要旨)

- ・ 昨年、本州での 2 件の事故を受け、国土交通省から都道府県、道路担当部局、消防防災担当部局、警察庁に対して「道路冠水による事故の防止対策」として、事務連絡文書が発せられている。
- ・ 都道府県の内容は、「気象情報の収集及び初動体制の確立」、「必要に応じ、警報システムなどの施設の設置」、「各道路管理者及び所管の警察及び消防との連携強化」について対策するようにとの連絡がいつている。
- ・ 冠水想定箇所の選定の基準、調査手順は、アンダーパス部等前後に比べて、局部的に急低下している区間として、北海道内では各市町村、土木現業所から情報を収集し、開発局でとりまとめを行った。
- ・ その結果、渡島檜山管内の冠水想定箇所は 2 箇所（道道の七飯町本町 1 丁目の道道七飯大野線と木古内町の町道、大谷地 1 号線）となり、このことを平成 20 年度第 1 回目幹事会で報告したところである。
- ・ そのなかで、支庁からは調査方法や周知方法、警察からは普段冠水しているところが入っていない、土木現業所からは当該道道は冠水の可能性はあまりない、といった意見があり、その後、道道については取り下げとなり、木古内の町道については再度、意見照会をしている。
- ・ 以上の意見をうけ、アンダーパス部に限らず冠水の想定される箇所を今後整理

していきたいと考えている。

- ・このことは、開発局が当初まとめているアンダーパス部ということではなく、協議会として整理するものである。
- ・整理の方法は、道路管理者、警察にアンケートを取り、結果を各道路管理者に照会し、確認していきたいと考えている。
- ・情報伝達の訓練についても次年度に向けて行いたいと考えている。

(气象台)「必要に応じ、警報システムなどの施設の設置」とあるが、これは既にある装置なのか。

(事務局) 国道でアンダーパス等の冠水箇所があり、危険箇所ということであがった場合には、そのアンダーパスの前後に警報システムや情報板などをつけることになっている。道内の国道のなかでは該当箇所がないが、全国的には情報板や警報システムをつけることになっている。国土交通省のほうから都道府県や市町村に送っている文書についても、できる限り設置して下さい、というお願いはしている。

(渡島支庁) アンケートは、洪水期前にやっておくほうがよいと思う。アンケートだけでなく、図面に場所をおとしてもらったほうがよい。また、収集した情報は協議会で作成している防災情報図に載せてはどうか。防災情報図はホームページにも公開している。例えば3月ぐらいからお願いの文書だけ出して、集めるのは4月の末でもよいと思う。4月になれば人事異動とかで場所とかわからないという話になる。

(座長) 頂いた意見をもとに、事務局にて検討させて頂く。

3-2. 議事2 道路情報の提供について

- ・事務局より、開発局の道路情報に関する提供サイト、北海道の防災対策支援システムについて説明を行った。
- ・出席者間で、機能の確認などの意見交換を行った。

(説明要旨)

- ・災害や道路(河川)に関する情報は、それぞれの管理者から情報が発信されているが、サイトが多様化していることも実情としてあるため、開発局の道路情報(国道別道路画像、峠別道路画像、道路情報提供システム)、北海道の防災対策支援システムについて説明を行った。

3-3. 議事3 豪雪及び津波検討の状況

- ・事務局より、豪雪及び津波検討の状況について説明した。

(説明要旨)

(豪雪)

- ・「検討の背景、目的、検討項目」「昨年度までの状況」「今年度の活動と進捗」について説明を行った。「今年度の活動と進捗」については、以下のとおりである。

- ・臨時の雪堆積場の第一候補地としていた港湾管理者（函館市港湾空港部）に対し、協議会の委員である函館市総務課を通じて事前に意見照会を行い、条件付きで了解を頂いた。協定書の作成にあたり、協議や打合せを重ね、双方で確認したものを案として、ワーキンググループのなかで意見交換を行った。ワーキンググループの意見交換では、協定者（甲乙）の考え方や費用負担の考え方など、様々な意見が出されたところであり、これらの意見を問題点として整理することとなった。確認、調整に時間を要する内容であるため、次年度以降、引き続き検討を行うこととなっている。

（津波）

- ・「検討の背景、目的、検討項目」「検討対象地域」「今年度の活動と進捗」「基礎資料の整理」について説明を行った。「今年度の活動と進捗」については、以下のとおりである。
- ・今年度は、検討項目に対してそれぞれ細かな確認事項、検討項目を整理して、問題点を抽出していきたいと考えている。ワーキンググループは同日の午後開催する予定である。

（座長）豪雪検討については、港湾用地を臨時の雪堆積場として認めていただけたことは、本検討においては大きな一歩である。次年度も引き続き、調整、確認を行っていきたい。

3-4. 議事4 その他

- ・事務局より、次年度開催を予定している講習会等のテーマについて、事前の意見照会を行った。

（渡島支庁）テーマとして、講演会と気象情報講習会のどちらにするか、対象者をどうするかを決める必要がある。最近は防災の意識も高まってきている。例えば、冬のはじめぐらいに冬期の交通事故の状況とドライバーの意識の問題などから道路のあり方を考えるなどの考え方もある。協議会の活動を一般に周知するのであれば、そのなかで、災害情報の提供方法などの周知を行うことも考えられる。

（気象台）一般を対象とするなら、道路防災を主として、緊急時の電話（災害伝言ダイヤルなど）の周知や構成機関からの話題提供を行うことも考えられる。なお、気象台では、今年度、気象講演会を江差で開催する予定があり、一般も対象としている。

（座長）対象を一般にまで広げることも考えられる。一般市民まで広げると講演会形式が想定されるが、講師への依頼などで準備に時間がかかることがあるので、早めの調整が必要である。

（方面本部）講演会もよいと思うが、せっかくこのような協議会があるので、協議会がどういう活動しているのかという広報も大切だと思う。構成機関であっても、担当以外の方は協議会でどういうことやっているのかを知らないと思う。協議会はこのようなことを検討したり資料を作成したりしているということを広めることも大切。

- (方面本部) 道路障害(落石、崖崩れ、土石流など)の場合には、早めの対応が必要である。このような協議会、関係機関の連携は重要であり、顔の見える信頼関係としても、こういうものがあったというような電話だけでもよいので、連絡を密に行きたい。
- (渡島支庁) 役場のほうにも問い合わせがあるということを知っている。道路の維持の範疇で終わるものについては特段構わないが、明らかに大きくなるというような場合は、警察は勿論、役場にも連絡を入れてもらいたい。
- (方面本部) 小さな落石でも連絡は欲しい。警察は、大きく構えて小さく済めばよいという体制でいる。協議会で顔を合わせているので、連携をとって行きたい。
- (气象台) 去年の10月、气象台が機動調査班というのを立ち上げ、災害があった場合に現地に行って、後々災害の原因を把握することとなっている。現地に行っても片付けられている場合があるので、气象台にも情報を頂ければ対応ができる。また、現地に行けない場合もあるので、写真などの提供について協力をお願いしたい。
- (渡島支庁) 機動調査班が出来たというのは聞いていたが、行動の基準はどのようになっているのか。どこまでのレベルで災害情報が必要なのか。支庁としても出せる情報と出せない情報がある。
- (气象台) 手元に資料がないが、地震、火山、津波、気象による災害によるものというような区分けがある。どのような情報をといる判断が難しく、情報をもらってから判断という場合もある。小さくても災害が起きたら災害速報を本庁に提出することになっている。
- (渡島支庁) 以前話したときに、支庁が持っている情報と災害速報に必要な情報に差異があった。内容によっては、他機関のほう詳しい場合もあるので、協議会を通じて他の機関にも周知してはどうか。

以上

別表

渡島・檜山地方道路防災連絡協議会
平成20年度 第2回 幹事会 出席者

	機関名	部署	役職	氏名	備考
1	渡島支庁	地域振興部 地域政策課	主査(防災)	大谷 聡	
2	檜山支庁	地域振興部 地域政策課	主事	山田 圭佑	
3	函館土木現業所	企画調整室			欠席
		管理課	主幹	佐々木 嘉美	
		道路建設課	道路維持係長	関村 公夫	
4	北海道警察函館方面本部	警備課	災害係長	嶋本 貴士	
		交通課			欠席
5	北斗市	総務部 総務課	主幹	天満 浩之	
			嘱託員	川岸 実	
6	函館海洋気象台	業務課	課長	若木 静夫	
			地震津波防災官	家常 昌洋	
7	函館開発建設部	防災対策官	防災対策官	花田 行弘	
		工務課	課長補佐	高山 雅彦	
			交通対策専門官	今井 正欣	
			道路防災係	佐藤 優	

7 機関組織 13名